

令和元年 5月 24日  
気 象 庁

## 第 144 回気象記念日について

～「気象業務はいま 2019」を刊行します～

令和元年 6月 1日（土）は第 144 回気象記念日です。気象庁では次の記念行事等を行います。

### 1. 第 144 回気象記念日式典を行います。

日時 令和元年 6月 3日（月）15時 00分～15時 50分  
場所 気象庁講堂

- ・ 式典において、気象業務に功績のあった方への表彰を行います。表彰受賞者は別紙 1 のとおりです。
- ・ 式典は報道機関に公開します。会場内での撮影が可能です。

### 2. 「気象業務はいま 2019」を刊行します。概要は別紙 2-1、2-2 のとおりです。

※気象記念日は、明治 8 年(1875 年)6 月 1 日に気象庁の前身である東京気象台において業務を開始したことを記念して、昭和 17 年(1942 年)に制定されました。

問合せ先：電話 03-3212-8341・FAX 03-3201-0682

式典関係 気象庁総務部総務課 池田（内線 2110）

表彰関係 気象庁総務部人事課 飯野（内線 2133）

刊行関係 気象庁総務部企画課 河里（内線 2261）

令和元年6月1日付

## 第144回「気象記念日」気象庁表彰受賞者名簿

## 【国土交通大臣表彰】

## ●一般功績

多年にわたり気象庁の業務や防災知識の普及啓発に積極的に取り組み気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	一般社団法人 日本気象予報士会

## ●委託観測所（地域・個人）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり矢掛地域雨量観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	江尻 雅幸

## ●委託観測所（航空）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり波照間航空気象観測所の委託観測業務を遂行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	竹富町

## ●船舶（気象通報）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	エム・オー・エル・エルエヌジー輸送株式会社	ENERGY PROGRESS

## 【気象庁長官表彰】

### ●一般功績

多年にわたり気象科学館説明員として気象庁の業務や防災知識の普及啓発に積極的に取り組み気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	一般社団法人 日本気象予報士会 鈴木 守
2	一般社団法人 日本気象予報士会 牧野 恒明
3	一般社団法人 日本気象予報士会 三澤 和男
4	一般社団法人 日本気象予報士会 川股 浩

安全知識の普及啓発及び地域防災力向上に有効なツールの開発に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	帝京大学学修・研究支援センター准教授 森 玲奈

多年にわたり地震予知情報業務の推進に長年貢献した功績

番号	被表彰者名
1	元東京大学地震研究所教授 大久保 修平

障害種に応じた先進的な防災教育の展開及び推進に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	栃木県立今市特別支援学校
2	栃木県立盲学校

ひまわり8号・9号を用いたプロダクト開発の助言、大容量データ配布の仕組み構築及び利用研究開発の裾野拡大に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	静止衛星データ利用技術懇談会 委員一同

●委託観測所（地域・個人）

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者名
1	いとくしべつ 糸楯別地域気象観測所	響 淳子
2	のぼりべつ 登別地域気象観測所	近井 健一
3	おしょつぶ 押帯地域気象観測所	富川 範己
4	おおいさわ 大井沢地域気象観測所	佐藤 耕二
5	しなのまち 信濃町地域気象観測所	宮本 光廣
6	ちゃや 茶屋地域気象観測所	木山 凱也

●委託観測所（地域・団体）

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者名
1	つるい 鶴居地域気象観測所	鶴居村長
2	いけだ 池田地域気象観測所	池田町ブドウ・ブドウ酒研究所長
3	おおつ 大津地域気象観測所	豊頃町立大津小学校長
4	てしお 天塩地域気象観測所	株式会社天塩町酪農振興公社
5	たきかわ 滝川地域気象観測所	農業研究本部中央農業試験場遺伝資源部
6	いまべつ 今別地域気象観測所	今別町教育委員会 教育長
7	いびがわ 揖斐川地域気象観測所	揖斐川町
8	たるみ 樽見地域気象観測所	本巣市立根尾中学校
9	あまぎさん 天城山地域気象観測所	株式会社東急リゾートサービス天城高原ゴルフコース
10	しらかわ 白川地域気象観測所	白川村長
11	かわい 河合地域気象観測所	飛騨市立河合小学校

12	ほたか 穂高地域気象観測所	松本広域連合 穂高消防署
13	にいつ 新津地域気象観測所	J A新津さつき西部営農経済センター
14	ななお 七尾地域気象観測所	七尾市
15	いまいち 今市地域気象観測所	宇都宮市上下水道局
16	しおや 塩谷地域気象観測所	塩谷町
17	くわな 桑名地域気象観測所	桑名市長
18	あいさい 愛西地域気象観測所	愛西市市長
19	がまごおり 蒲郡地域気象観測所	愛知県農業総合試験場園芸研究部 常緑果樹研究室長
20	はくさん 白山地域気象観測所	津市消防本部消防長
21	あしかが 足利地域気象観測所	足利市消防署南分署
22	みやま 美山地域気象観測所	南丹市立美山中学校
23	たけはら 竹原地域気象観測所	広島県果実農業協同組合連合会
24	ちかなが 近永地域気象観測所	愛媛県立北宇和高等学校
25	きとう 木頭地域気象観測所	那賀町役場木頭支所
26	ちや 千屋地域気象観測所	阿新農業協同組合千屋肥育センター
27	いまおか 今岡地域気象観測所	美作市大原総合支所
28	たかはし 高梁地域気象観測所	高梁市立高梁小学校
29	くま 久万（委雪）地域気象観測所	久万高原町消防本部
30	じょうじゅしゃ 成就社地域気象観測所	石鎚登山ロープウェイ株式会社
31	きたかた 北方地域気象観測所	延岡市北方総合支所
32	いんない 院内地域気象観測所	宇佐両院商工会院内支所
33	たかもり 高森地域気象観測所	高森町立高森中学校

●委託観測所（航空）

多年にわたり航空気象観測業務を遂行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者名
1	おくしり 奥尻航空気象観測所	奥尻空港管理事務所
2	りしり 利尻航空気象観測所	利尻空港管理事務所

●船舶（気象通報）

多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	エム・オー・エル・エルエヌジー輸送株式会社	LNG EBISU
2	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	白鳳丸
3	海上自衛隊横須賀地方総監部	しらせ
4	NYK SHIPMANAGEMENT PTE LTD	TAKAMATSU MARU

●船舶（表層水温）

多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	静岡県水産技術研究所	駿河丸
2	三重県水産研究所	あさま

●漁船

海上気象の観測通報に積極的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	紋別漁業協同組合	第二紋別丸
2	濱田水産株式会社	第一共進丸
3	まるわか水産株式会社	第八十三若潮丸
4	神崎水産株式会社	第七十八幸榮丸

(部内職員)

●一般功績

台風強度予報の精度向上と期間延長に資する技術開発等を行い5日先までの強度予報の業務化に貢献した功績

番号	被表彰者名
1	気象庁予報部・気象研究所 台風予報・解析技術高度化プロジェクトチーム

数値予報ルーチン制御システム（ROSE）導入により数値予報業務の安定運用や数値予報BCP業務の開始及び数値予報モデルの精度向上に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	気象庁予報部数値予報課 ROSE開発チーム

## 「気象業務はいま 2019」の刊行について

気象庁では、気象庁の取組の現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的として、「気象業務はいま」を毎年 6 月 1 日の気象記念日にあわせて刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2019」の主な内容は次の通りです。構成については別紙 2-2 をご覧ください。

## ○ 特集

気象庁の取組の中で特にスポットを当て、内容を詳細に紹介するコーナーです。今年は以下の 3 点についてそれぞれ紹介しています。

- 記録的な被害をもたらした平成 30 年 7 月豪雨と、この災害を受けた気象庁の防災気象情報の改善に向けた取組
- 昨年 8 月にとりまとめられた交通政策審議会気象分科会提言「2030 年の科学技術を見据えた気象業務のあり方」
- 平成における気象業務の歩み

## ○ トピックス

気象庁の最新の取組を紹介するコーナーで、主な自然災害への対応、昨年 5 月に創設した気象庁防災対応支援チーム（JETT）の活動、気象情報やデータを利用した生産性向上への取組、最新のスーパーコンピュータや気象衛星をはじめとする観測機器を活用した技術開発などを紹介しています。

「気象業務はいま 2019」は、6 月 3 日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

## 「気象業務はいま 2019」の構成

## ○特集 1 平成 30 年 7 月豪雨

- 1 平成 30 年 7 月豪雨
- 2 防災気象情報の伝え方に関する検討会

## ○特集 2 2030 年の科学技術を見据えた気象業務のあり方

- 1 はじめに
- 2 交通政策審議会気象分科会提言「2030 年の科学技術を見据えた気象業務のあり方」
- 3 提言を受けた気象庁における取組の推進について

## ○特集 3 平成を振り返る

- 1 はじめに
- 2 平成における気象業務の歩み
- 3 平成から令和へ

## ○トピックス I 自然のシグナルをいち早く捉え、迅速にお伝えするために

- 1 相次ぐ台風への対応
- 2 平成 30 年夏の記録的な高温
- 3 相次ぐ被害地震
- 4 気象庁防災対応支援チーム（JETT）の活動
- 5 平成 30 年冬の大雪を受けた情報の改善
- 6 気候リスク低減と生産性向上に向けた 2 週間気温予報の提供開始
- 7 南海トラフ地震への備え

## ○トピックス II 長期の監視から地球の今を知り、将来に備えるために

- 1 気候変動に関する適応策への貢献
- 2 世界気象機関（WMO）による石垣島地方気象台の「百年観測所」の認定

## ○トピックス III 気象情報の活用により、より豊かな暮らしを実現するために

- 1 新たな気象ビジネスの誕生

## ○トピックス IV 最新の科学技術を導入し、気象業務の健全な発達を図るために

- 1 第 10 世代スーパーコンピュータの運用開始
- 2 多様な観測データを高度に活用した気象技術開発の推進
- 3 ひまわり黄砂監視画像の提供開始

## ○第1部 国民の安全・安心を支える気象業務

序章 はじめに

- 1章 気象の監視・予測
- 2章 地震・津波と火山の監視・予測
- 3章 地球環境の監視・予測
- 4章 交通の安全などのための取組
- 5章 産業の興隆などのための取組
- 6章 地域の防災力向上への取組

## ○第2部 気象業務を高度化するための研究・技術開発

- 1章 大気・海洋に関する数値予報技術
- 2章 新しい観測・予測技術
- 3章 地震・津波、火山に関する技術開発
- 4章 大学や研究機関と連携した研究・技術開発

## ○第3部 気象業務の国際協力と世界への貢献

- 1章 世界気象機関（WMO）を通じた世界への貢献
- 2章 国連教育科学文化機関（UNESCO）を通じた世界への貢献
- 3章 国際民間航空機関（ICAO）を通じた世界への貢献
- 4章 国際的な技術開発・研究計画との連携
- 5章 開発途上国への人材育成支援・技術協力について

## ○第4部 最近の気象・地震・火山・地球環境

- 1章 気象災害、台風など
- 2章 天候、異常気象など
- 3章 地震活動
- 4章 火山活動
- 5章 黄砂、紫外線など

## ○参考資料

全国気象官署等一覧、用語集、索引